

平成28年度

岩手県立大野高等学校 第1回学校評議員会 議事録

日時 平成28年 5月23日(木) 16:00~17:00

場所 岩手県立大野高等学校 応接室

参加者 学校評議員4名、校長、副校長、事務長、総務担当者

## 1 開会

副校長：只今より、第1回学校評議員会を開催いたします。

## 2 学校長あいさつ

学校長

お忙しい中のご来校有り難うございます。普段学校にいらっしゃることは少ないとは思いますが、学校評議員としてご委嘱申し上げましたので、できるだけ学校にも足を運んで頂きながら、或いは学校からも色々お届けしますので、この一年間見て頂きながら、高校について色々忌憚のないご意見を頂きたいと思っております。

今はPDCAと言って、いかにこれまでの活動を活かして次に繋げていくかという反省をきちんとおこない、それを学校評議員の方からご意見を頂き、次に活かしていくという学校評議員会の主旨ですので、ざっくばらんにご意見を頂きたいと思っております。

今日は特に、学校の経営方針を軸に、このような学校を作っていきたいという話をしていきたいと思っております。

## 3 学校概況説明

副校長

学校評議員会は年2回実施される会議になります。次回は2月23日(木)を予定しています。

それでは、学校概況説明をさせていただきます。平成27年度末からの主な行事についてですが、3月1日に卒業式が挙行され、39名の生徒が卒業しました。卒業生は昨年度(平成27年)12月中旬に就職希望者は全員内定を得る事ができ、早いうちに就職率100%を達成できました。進学面でも国公立大学である岩手県立大学・岩手大学へ推薦2名、一般前期1名、一般後期1名の計4名が合格しました。特に一般後期は志願倍率が4倍を超える中での合格でした。そのほか、高等看護専門学校へ、県立2名、私立2名計4名の合格者も出ております。最終的には進学率も100%を達成いたしました。

また、新たな職員も菅原一成校長を始め、7名の教職員が赴任して参りました。全教職員は23名で大野高等学校の教育活動にあたっています。

4月7日におこなわれました入学式を終えて、1学年が44名、2学年が56名、3学年が55名、全校生徒155名でスタートしました。

部活動においては、18年連続インターハイ出場の卓球部を中心に文化部の吹奏楽部も土日返上で活動しています。昨年度、土曜日のみ活動していた部も、新しい顧問の赴任などにより日曜日の活動も増えてきています。今月(5月)の25日~29日にかけて高総体がはじまり、バスケット・バレー・卓球・サッカー、6月に入るとソフトテニスといったように競技がスタートします。野球部においては、春の地区予選では代表決定戦までいきましたが、残念ながら県大会を逃しており、現在、夏の大会にむけて練習に励んでおります。

学校案内についてですが、「地域に根ざした特色有る教育」ということで里山整備と「工芸」の授業を

実施しております。こちらは大野産業デザインセンターまで生徒が移動し裂織、木工、陶芸などにわかれて授業をおこなっております。

大野高校は朝学習、授業とこなしておりますが、スクールバスの関係上、他校と比較すると授業開始時刻が遅めになっております。

部活動においても、卓球部女子が学校対抗優勝5連覇で通算6回目の優勝を果たしております。また、毎年洋野町の海外派遣事業へ2年生が参加しており、今年度も参加予定となっております。

#### 4 学校経営計画について

学校長

平成28年度の学校経営計画についてご説明します。

本校の今年度の出身中学校ですが、大野中学校が6～7割となっております。また全校生徒数が次年度はそのまま行くと次第に少なくなってしまう、非常に厳しい状況となっている。部活動はサッカー部男子16名います、3年生引退後はiリーグへの参加が危ぶまれます。

年によってメンバーの人数に凸凹があるものの部活動に支障がでる部も生じる可能性があります。

経営計画の、「学校に影響を与える変化」ですが、「心身の発達状況に何らかの課題を抱える」いわゆる、「発達障害」や「特別支援」と言われるような様々な課題を抱える生徒もいます。また、家庭事情に問題がある生徒もいます。このような生徒に職員は丁寧に対応していきたいと思っております。

また、少子高齢化・過疎化ということで、本校の入学数が続けて60名を切ると1クラスにするという岩手県の方向性があり、なんとか、中学校からの定員を獲得しながら、とにかく大野高校としての魅力を発信し続けていきたいと思っております。このほかに、18歳からの選挙権拡大ということで、今年度から主権者教育もおこなっております。

目指す学校像への今後の取り組み方針について、簡単に説明します。

まずは「わかる授業」や「授業力向上」というのが県においても学校においても重要課題となっております。今授業方法の改善が進んでおり、アクティブラーニングという「対話型」「活動型」の授業が進んでいます。機会があればご覧になってください。また、活動的な授業の中で、生徒の力をどれだけ伸ばすかというのが今取り組んでいる課題です。

次に「個を大切にしたい指導」つまりいじめ対策ですが、これについては職員研修もおこなっております。いじめになる前の段階で組織的にストップをかけるため、対策として、アンケートや普段の（生徒）観察、保護者との連絡などの方針をとりながら「いじめ対策委員会」を中心に対応をおこなうよう進めていきます。

職員会議において生徒の情報共有をしており、問題行動も現在のところ生じておりません。

生徒1人1人の進路目標の実現について、先ほど進学・就職100%ということについて述べましたが、高校において学力を伸ばす生徒が増えていきます。

キャリアノートという進路ノートに生徒が色々な講演会において感想を書かせますが、なかなかよい文章が書けない。きちんとした文章を書く習慣をつけさせるため、キャリアノートを3年間書かせて、卒業時には進学者は小論文、就職者は志望理由や自分のアピールなどをできるような力を付けさせるため、系統的な指導を行っています。

教員が互いの授業を見せ合い、外部の授業公開を見学するなどしています。学校評議員の皆様にも学校の授業を見に来て頂きたい。今、授業評価の仕方も変わってきており、このような変化に対応すべく研修などもおこなっております。

地域の活性化に貢献する素材として、今年も北奥羽ナニャドヤラ大会に参加する予定です。また、洋野町の復興支援員の宮本慶子氏をお招きしての洋野の魅力を伝えるための講演会を企画しています。で

きる限り、地域の素晴らしさを子ども達に体感させたいと考えています。マツタケ狩りや久慈平荘様に協力を頂き、介護職員初任者研修も行います。このように地域と一緒に、生徒の自己肯定感を高め、授業と部活と地域活動を柱に学校運営をしていきたいと思ひます。

魅力有る学校の活動を発信するため、学校通信「飛翔」を毎月全世帯に配布を予定しています。HPにも学校の情報を載せていきます。

#### <質疑応答>

##### ■学校評議員Aさん

・保育園から中学校まで手のかかる子どもが増えていて、高校も同様だと聞いたがどれくらいの割合か。他校種であれば学校支援員という形で対応して、大野高校でも特別な支援を必要とする生徒がいるというが、どれくらいの人数か。また、どのようなサポート体制か。

(御意見) 他校ではやっていない特色ある行事などはもっとPRしてほしい。地域との連携も関係すると思うが、工芸のような授業を受け、職業として将来やっていけるよう育ててほしい。

#### <学校回答>

・どこまでを発達障害・特別支援対象として認めるのは難しい。いわゆる学習面での補助が必要だと考えられる生徒もいる。当該生徒に対しては個別の長期的な指導(支援)計画をたてはじめている段階。ADHDなどの可能性がある生徒もいる。

##### ■学校評議員Bさん

・貧困が全国的に問題になっているが、サポート体制はどのようになっているか。  
・塾とかに行くのはこの地域では難しい。

#### <学校回答>

・授業料無償化制度が無くなり、現在では、代わりに就学支援金という県の制度がある。また、このほかに各種奨学金制度もあり適宜生徒に案内している。

・おおのつばさ会から、寄付をいただき、土日の課外手当の捻出などを行っている。そのため塾に行けない生徒であっても学習の機会を増やすようにしている。

##### ■学校評議員Cさん

・ゴレンジャーの発想はどこから出たか。  
・卓球で大野の名をアピールしているが、他から入ってくる1年生が少ない。3年生が抜けると大変ではないか。  
・毎年校長が変わるのは、県の方針なのか。

#### <学校回答>

・ゴレンジャーに関しては不明。ただ、高総体開会式ではかなりの人気を博している。  
・卓球は、国体の関係で岩手県から強化している。そして今年平成28年度が完成年となっている。  
・校長の人事に関しては県教委が決定すること。

##### ■学校評議員Dさん

(御意見) 学校経営計画のベースはあるが、応用が不十分だと考えられる。キャリアノートは大切な取

り組みだと思うが、その先の子どもの将来につなげてほしい。

■学校評議員Eさん

・応援歌練習で19人保健室に行ったと聞いたが、4年前に知り合いに応援歌練習がきっかけで退学した生徒がいたが、今年はどうか。

・久慈平荘と連携しての介護初任者研修だが、現状はどのようなものか。

<学校回答>

・応援歌練習については、岩手県全体の問題となっている。休んだもん勝ちになってしまうのは困る。応援歌練習期間に早退・欠席が頻発した生徒は、通常通り出席している。

・久慈平荘における介護初任者研修は県・町の補助によって成り立ち、生徒の負担金は無いもの。最終的に県議会を通過し町議会にかけられる内容なので、6月が実質のスタートとなる。

主たる質疑については以上のおりでした。